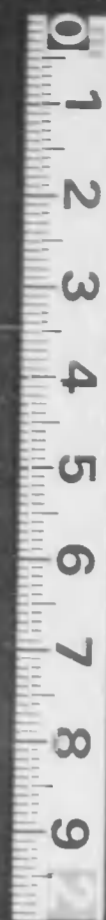


寫眞週報

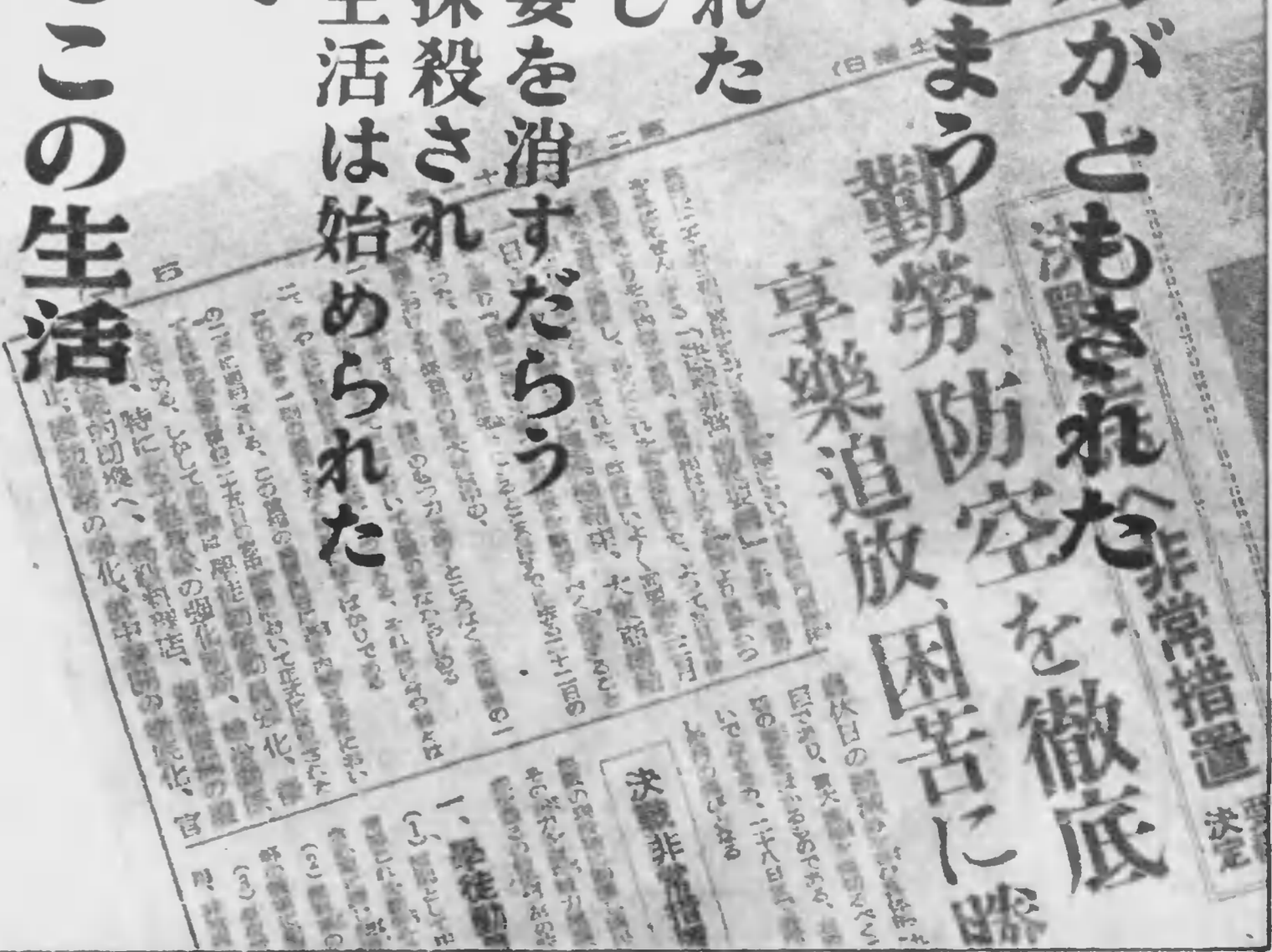
情報局編輯

三月十五日・第三十三卷・第十七号



勝利への生活に明るく灯がともされぬ
 このみちを驀らに突き進まう
 巷に享樂の紅燈は消え
 高級興行場の扉は閉された
 花園はすでに農地と化し
 一切の裝飾的なものは姿を消すだらう
 官廳の曆から日曜日は抹殺され
 國を擧げて月々金々の生活は始められた

一億が同じ乏しさに耐へ
 同じ勤勞の喜びにひたるこの生活
 これにまさる明るい生活があらうか



海軍少佐 音羽正彦侯 クエゼリン島に壯烈なる戦死

クエゼリン、ルオット兩島に於いてわが守備部隊四千五百、軍艦二千は一月卅日來侵寇し來つた敵大部隊を遂撃し、寡兵よく敵に大損害を與へ二月六日最後の突撃を敢行、全員壯烈な戦死を上げたアツについでクラワ、マキンの玉碎を経て三度目の悲報である

海軍少佐 音羽正彦侯もこの戦間に於て勇戦奮闘、つひにクエゼリン島に於いて守備隊員と運命をともにされた。音羽侯爵はかくも朝香宮鳩彦王殿下の第二王子にあらせられ、過ぐる上海作戦において、つねに第一線に挺身、偉功をたてられたがこの度もまた南海の最前線にすませられ、敵をむかふるや、率先陣頭に立つて突入、つひに散華せられたのである

尊きおん身を以てかくの如き壯烈な戦死を遂げられたことは、我らのすゝむべき道を身をお示しになられたものといふべく、戦局はますます激しさを加へ、祖國の勝利はかつてわれらの双肩にあるとき、われらはその壯烈な御最期を心から悼むとともに、この率先理範を深く心に銘じ、一死報國樹敵撃滅に邁進することを固く誓ふものである

北の基地では零下何十度の中で寒風も停んだ



前線勇士は

なん生生活して

大敵アメリカと戦ふんぞ、
どんな苦しい生活にも堪へ
いて。宣戦の日、日本人と
いふ日本人は、みんなさう決
心した。
ところが今日までの我々の
生活はどうだったらう。あの
日の決意で頑張つてゐたら、
量でも敵には負けなかつたは
ずだ。我々の生産への努力が
足りなかつたばかりに、何干
のわが将兵に幾度か無念玉碎
の熱涙を看ませ、獅子づいた

敵ともに、圖に乗つたわめき
方をさせてゐるのだ、といは
れても、何の返す言葉があら
う。
しかし、過去はいふまい。
決戦非常措置の實施された今
即決心を入れかへ、生活を切
りかへ、米、米鬼をやつて
けるための戦争生産にすべて
を捧げよう。祖先にも子孫
にも中華の立つやうに。
苦しいと思ふ前に前線での勇
士たちの生活を思ひ起さう。
我々の生活はまだ、勿體な
さうなものではなからうか

これが勇士たちの住居だ。最も電燈もこゝにはない



この奥に敵弾を避けるまつ暗な穴居がある。穴を出れば既に命がけだ



草の叢の中でおかずとは名のみのご飯、だが勇士は舌鼓を打つてゐる



敵機襲来の合間々々をみて、いそいで洗滌



撮影 同盟通信社及び従平、瀬口海軍報道班員4
激戦敵の給與にくらべ、自給自足の細作も戦ひのひまなくに



川とはいへないスコールの水溜りで飯食炊さん



石に腰かけ報告を書く机はこの彈薬箱だ





なすも冠の温泉行、いま空襲が
つたが、たはとどうも気が

生活は即刻切替だ



暇さへあれば隣組ごぞつて防空訓練だ
いさ空襲となれば訓練の気持でゆくのだ



小劇場 精進一年へ享樂は断然追放だ

特級映画館も
高級劇場も
高級料理店も
待合も

高級酒場も



玉砂利を運ぶヘリコ、と時給が低減してゐる前とこの茶屋車は何のたのしみだ



駅前からつめかける人たちは何か大きなことを成してやらないか。こゝは戦争と



下出しは敵、輸送の敵、低物作戦の敵、勝利をばはむ利敵は為た



見舞へ上京して、帝都の精進一色にぶつくりたる迂問者はないか

生活け即刻切替だ

無事などといふ言葉は皮上にて、働いて働きぬくぞ、暮ら日まで



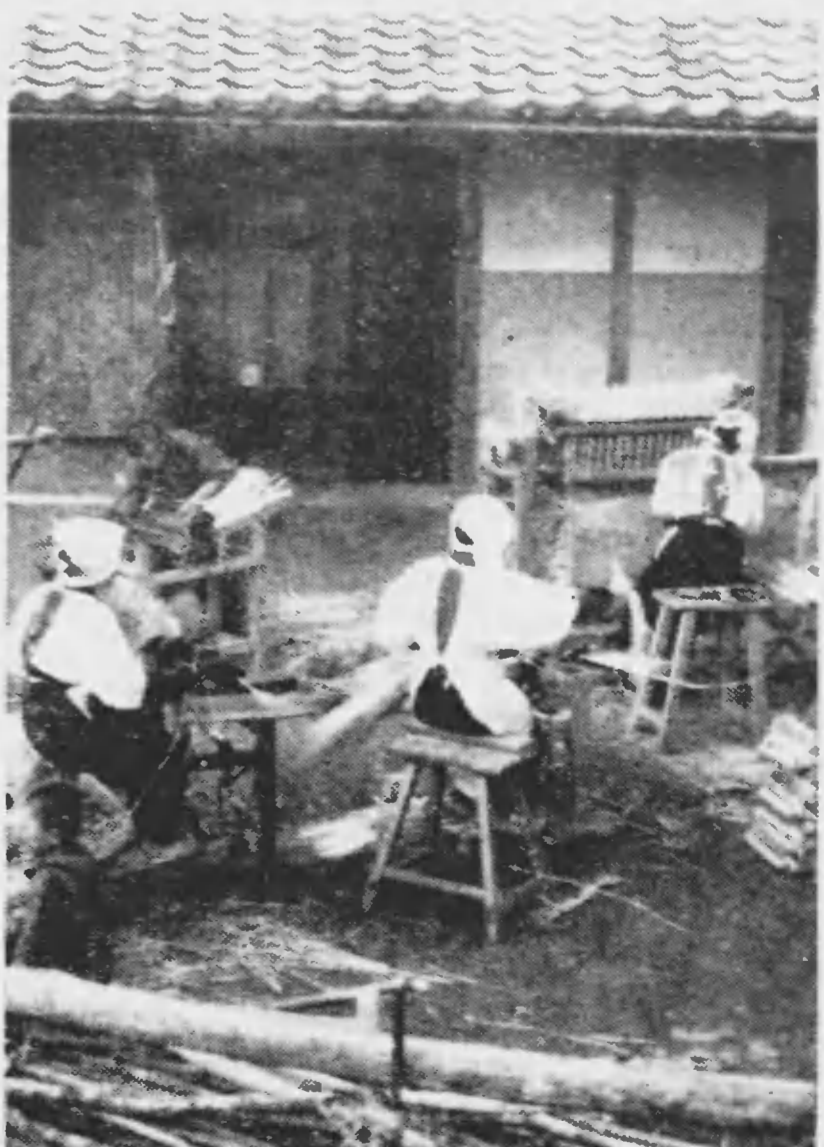
女達はすでに女子挺身隊員として兵器工場で働き目をあやむに戦つてゐる



買取りにしろ／＼する服を穿つために内戦をつづける婦人もこの通りあるのだ



下しどころか、生活をギリ／＼一杯に切りつめて貯金する時だ





古い家に輝かな家、通んでると静寂があるには静寂のない人、静寂を静か

静寂を静か

静寂の日でこそその静寂を静か

生活は静寂切替だ

日中働き疲れた工員がこんなせまい乱屋で疲れをいやしてゐること考へよう

静寂も静寂も静寂も。半分の土地でも戦ふ心で耕せば蔬菜は育つ

粒々辛苦して種入れた米を野菜を割さず供出す農夫の心は前線將兵と一つだ

日満一體 穀倉満洲の全面的協力

満洲國 建國二十周年

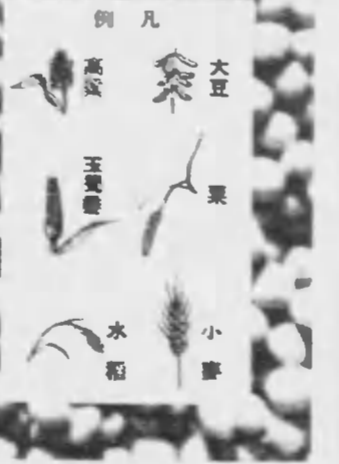


滿洲國が生れてから今年の三月一日
 五周年計の實行に入り、重工業資源
 へは大して水月日ではなく、むしろ
 國家の歴史としては大變にみじかいの
 ですが、この短い間になされたま
 ましい業績は、世界歴史のうへにもか
 つてない輝かしいものでした
 として今や、わが國と一緒に、東亞
 の支へとなつてこの戦争を勝ちぬくた
 めに、精神的にも、物質的にも、國を
 挙げて協力してゐます。この嬉しい
 ことを、その糧食出荷ぶりに記録して
 ゐます。

委はまさに世界の驚異といつてよく、
 戦ふわらし連の後継としての力強い
 協力ぶりに深く感謝しなければなら
 ないところで
 さて、この建國二十周年の輝かしい生
 長のあとをたどつてみますと、わが國
 との共同防衛によつて北滿鐵道に機銃
 の堅陣を築いたことや、民族の融和、國
 民生活の安定、國家觀念にめざましい
 しい國民の養成等、心身ともに東亞の
 民としての自覺に燃える國民を育てあ
 るに、日滿を一體とした食糧の確保
 が期せられることになりましたが、戦
 ふおそさを背負はうとする東亞滿洲の
 意氣はまさに頼もしく、昨年の農作
 のあとを待たず春耕を控へた今日
 この頃、今年も例年以上を出して穀倉
 としての重責を果さうと、早くも懸命
 の増産戦を開始してゐます

大豆にこの頼もしい滿洲の農業事情
 を述べてみます
 まづ農地をみますと、一千四百三
 十六万町歩の農地と一千六百八十万
 町歩の可耕未墾地があり、四千三百万
 の人口のうち七割四分が農民といふの
 ですから、まさに農業國滿洲といふこ
 とができます
 農産物の主なものは、世界産額の七
 割を産する大豆をはじめ、滿人の主食
 となる高粱、包米といはれる玉蜀黍、
 粟、小麦、水稻、陸稻、雜穀等の穀類
 ですが、これらのうち主食としてわが
 國に輸出されるものは、すでに昨年
 から増食とてわれわれの味覺にも
 親しまれてゐる大豆、高粱、玉蜀黍等
 ですが、これらについてみますと、大
 豆は全作付面積の二割四分、高粱は二
 割強、玉蜀黍は九分、小麦六分、水稻
 六分となつてゐて、計六割七分となつ
 てゐます
 この發展ぶりをみますと、大豆は康
 徳元年の三百二十七万三千町歩から同六
 年には四百六十六万三千町歩と飛躍し、高
 粱は百七十七万六千町歩から三百八十九万
 九千町歩へ、玉蜀黍は百二十万二千町歩
 から百九十七万七千町歩へ、小麦は八十
 二万六千町歩から百二十九万町歩、水陸
 稻二十万三千町歩から三十八万五千町歩
 へと、いづれも素晴らしい擴張をなし
 とせ、これに應じて生産高も大豆は康
 徳元年三百五十九万九千トンから同六
 年には四百五十四万九千トンと増え、高粱
 は三百五十八万八千トンから四百五十八
 万七千トンへ、玉蜀黍は百六十万九千ト
 ンから二百四十六万八千トンへ、小麦
 は八十六万二千トンから九十三万八千
 トンへ、水陸稻は三十一万五千トンか

ら八十万一千トンへと飛躍し、水陸
 稻などは十割以上といふべき増産
 産を示してゐますし、小麦もこれまで
 二毛作絶對不可能といはれた困難を克
 服して、今年からは一千三百八十町歩
 の耕地に秋播の小麦を播きつけ、さら
 に増産への新しい進軍が開始されま
 した
 これらの數字でもわかるやうに、一
 年一年と目みえて生産の飛躍を擧
 げてきた増産ぶりは、昨年になつてつ
 ひに未曾有の大豊作ぶりを示し、日滿
 食糧自給の前途を明るくしましたが、
 時局が要請する食糧の飛躍的増産計畫
 を完遂しようと、今年度は更に次の
 やうな萬全の對策が樹てられてゐます
 それによりますと、今年度の増産目
 標は、開拓團は十割、滿農は一割の増
 産が計畫され、適期播種、完全除草、
 土質の倍加を徹底的に實踐して耕作に
 努力する一方、集荷にも早期割當を
 奨励し、追加割當をやめ、供出成績に
 よつて獎勵金を出したり、綿糸布の特
 配して割當供出を完納させることに
 つとめると共に、割當完納の者に
 は報恩出荷運動をおこして日本への
 寄與を増加しようとしてゐるのです
 これによつてみても今年度の生産は相
 當に多くなると思はれますが、これら
 が直接わが國に送られ、力強い戦力と
 して食糧戦にも必勝を期せられること
 を思へば、建國の恩義に感じて、わが
 食糧確保に努力する全滿農民の熱意に
 對して、心からの感謝を送らうではあ
 りませんか
 授くも滿洲國皇帝陛下には、『朕
 は常に實戦に参加してゐる覺悟があ
 る。國民もこの覺悟をもつて増産に



「帝室内の芝生も草花も不要である」
 との思召しから、大豆、高粱等を植
 ることとなり、すでに春耕も終り、百
 花好を競つた原野も見事な畑と變り、
 播種を待つばかりになつてゐるといふ
 ことです。この戦時生活の御垂範に
 奉らうとはげむ滿洲國民の姿、こゝ
 にこそ建國十二年を迎へた滿洲國が東
 亞共榮國建設の先驅者としての光榮を
 十二分に擔ふ輝かしい姿があるのです
 建國十二年を迎へてこの光榮を大東
 亞の諸國家、諸民族に示すことを得た
 滿洲國を、われらも心から祝福しう
 ではありませんか

春耕、春播、中耕と永い勞苦はむくはれて、大豆の粒は珠玉のやうに輝く、農民の笑顔とともに



大豆の全産の全産

↑ 渠渠出荷も かうして集められた大豆はやがて農産公社の手を経て日本へ、われらの貴重な戦力となるのだ

麻袋にはちぎれるほど大豆をつめこんで

1 満洲農産物の大宗は大豆だ、世界産額の六割がこの土の戦士の努力に資する

2 開拓地をはじめ全滿各地に水稲も陸稻も黄金の波をうつやうになつた

3 高粱の收穫もおへた、食糧基地を守る農民連はその使命をはたしたよろこびにいそいそと大地を踏んで

4 滿洲の曠野にも小麥の芽が青々と柄模様を描く。しかも明年の増産をめざして蒐荷戦が終るや秋播小麥がまきつけられ、早くも中打の賑が打振られてゐる

大豆はどん／＼と蒐荷される、農民の努力を乗せて大車は公交場へ溢れる



